湖都通信

看護学科版

09

Coto Tsushin
[Nursing subject Version]

2023. 3. 1

滋賀医科大学同窓会「湖医会」

管理棟越しに滋賀県立体育館、工事中の新名神高速道路を望む
（右 滋賀県立体育館「SHIGA DAIHATSU ARENA」）

CONTENTS

湖医会賞を受賞して …… 和田厚幸・松井善典 …… 2

副会長就任 …… 山下　敬 …… 5

会員からのたより …… 服部聖子・平岡悠里・高山　景 …… 6

同期会　卒後10年会 …… 看護学科 16 期生卒後 10 年同期会幹事一同 …… 9

看護学科交流会 …… 看護学科交流会班 …… 12

キャンパス情報 …… 津田知子・山下　敬 …… 14

事務局から …… 事務局職員の異動、2022 年度湖医会総会議事録、会員の現況等 …… 19

DXで実現する地域資源の最大化 ～コマンドセンター活用による 病床運営の効率化とその成果～

この度は7,000人近い湖医会会員の中から第21回湖医会賞を受与いただき大変光栄に存じます、皆様にお礼申し上げます。

今回湖都通信への投稿の機会を得ましたので、受賞の対象となったこれまでの取り組みについて紹介させていただきます。

1．地域医療構想の必要性―湖南メディカル・コンソーシアム設立―

滋賀県南部は今後20年間人口が増加し、若年壮年層の減は小さく高齢者人口は急増すると想定される2025年は団塊の世代が後期高齢者となり急性期～慢性期病院機能を地域がどう維持するかという地域医療構想策定が重要となります。

厚生労働省は地域医療連携推進法人制度を発足させましたが、我々はこの湖南医療圏での医療機能別完結率と患者の流入出状況を分析し、医療機関相互間の機能分担を効率化する地域医療連携推進法人を構想しました。

2020年設立した湖南メディカル・コンソーシアムは湖南・大津医療圏にまたがる33法人101施設が参加する民間主導型の非営利法人であり、地域医療構想と地域包括ケアシステムの実現を目指し運営を開始しています。

2．医療におけるデジタル トランスフォーメーション システム（Dx）～コマンドセンターの創造～

2018年に経済産業省はデータとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、物品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化を変革するDx構想を提唱しました。

我々が医療におけるDxとは何かと考えた時、電子カルテ等の各種情報システムのデータを統合しリアルタイムで患者動態やスタッフの負荷量を分析・可視化するDxを創造するコマンドセンター設立を考えました。

それはデータの統合分析サーバと複数のタイル（Tile）と呼ばれるアプリケーションで構成されており、このTileを通じて病床管理・入退院支援に必要となる院内データを分析・可視化し、患者の急変リスクの予測、ケアの進行、退院計画、施設間の移動などをTileに表示することが可能となりました。これにより院内で刻一刻と変化する患者の状況をリアルタイムに捕捉し、医療従事者の高品質かつスピーディーなケアの実現ツールとなりました。

その成果を振り返ると淡海医療センターではコロナウイルス感染症が拡大する以前の一般病床稼働率は89.5%、感染拡大期である2020年度は89.9%でしたが、コマンドセンター稼働後の2021年度は病床の一部をコロナ専用病棟に振り分けたにも拘わらず94.1%と高い稼働率が維持できました。入院中急変、重症化する患者の一般病床からICU/HCUへの転棟件数は５件／月（17.2%）増加し、救命のための高度医療を適切なtimingで提供できるようになりました。コロナ禍でスッタフの欠勤等で人員的に厳しい病床運営を強いられる中、看護師の残業時間は2020年度と比して44%（月1035時間）削減することができました。

最後に、今まで点でしか結ばれていなかった湖南メディカル・コンソーシアムの施設が、コマンドセ

淡海医療センター 理事長特別補佐
心臓血管・心不全センター長
和田　厚幸（医６期）

ンターを中心としたDxの力をもって今後は面で地域を結び支える真の地域医療構想、医療イノベーションの推進が実現すると考えています。

湖医会賞を受賞して ②

母校の導きと滋賀での居場所から、果たし続ける役割と貢献

北海道家庭医療学センター 理事
浅井東診療所 所長
松井　善典(医25期)

在学中の恩師の先生方を始め、これまでの出会いと導きに心から感謝した湖医会賞の受賞となりました。25期生で受賞することに怖さもありましたが、活躍している後輩たちが続いてくれることも願って受け取りました。

低学年の時に出会い、ずっと深く強く影響を頂いた藤宮峯子先生、故早川一光先生、家庭医の道を志すきっかけを頂いた当時の滋賀医大の総合診療部の寺田雅彦先生、憧れのロールモデルとして家庭医の道を導いてくださった雨森正記先生、一瀬直日先生。誰１人として出会わなければ今の私はありません。

７年間の北海道での家庭医療学の学びと実践を経て、滋賀に戻ってくるときは不安でいっぱいでした。しかし、多くの先生が迎えてくださり、私の場を作ってくださった事にも感謝の気持ちでいっぱいです。非常勤講師に登用してくださった家庭医療学講座の三ツ浪健一先生、そして田村佑樹先生の円卓会議のご提案、滋賀県庁でお会いした吉川隆一先生のご支援、滋賀県の角野文彦先生のご助言、多くの先生方のお陰で、滋賀での居場所ができました。

そして徐々に滋賀医大の各学年を担当することになり、多くの先生方との連携や協働が始まりました。里親支援室の企画、NPO滋賀医療人育成協力機構の活動にも関わり、母校への貢献が外部からできることを嬉しく思ったのを思い出します。何よりブランクの時期に家庭医療演習を支えてくださった江口豊先生、全人的医療体験学習の松村一弘先生、医学概論・早期体験実習の垰田和史先生、フィールド実習の北原照代先生、そしてここ数年は地域医療教育専門検討委員会や診療所での基礎配属、課外授業の向所賢一先生、初期臨床研修医教育での川﨑　拓先生、多くの先生方のお陰で今日まで数多くの教育の機会や立場を担い続けることができました。

母校の卒前教育には多くの方々と労力と情熱が注ぎ込まれています。私が賞を頂いたのは「これからも頑張れ」という未来への応援と、外部という特殊な立場があったからと感じています。内部で一生懸命に教育を担い、学生たちに労力と熱量を注ぎ込んでいる数多くの教員皆様に心からの敬意と感謝を持ちながら、今後も良質な医療人を輩出し続ける母校であってほしいと願っていますし、私もその一端を担い続けたいと思いますし、そのためには論文化など学術面での貢献も目指して研鑽と発信に挑戦します。

副会長就任

副会長就任にあたり

基礎看護学講座講師
山下　敬（看５期）
（写真は大学卒業時のものです）

10月の総会で湖医会副会長を拝命いたしました、看護学科５期生の山下敬です。

滋賀医科大学は、2024年に開学50周年を迎えます。これに際し、1994年に設置された本学看護学科は、2023年度30期生が入学することになり、卒業生に至っては1500人を超えることとなります。看護学科の卒業生の皆さんも、附属病院で勤務される看護師をはじめ、日本全国の病院で看護実践や看護管理に携わっておられる方、保健師、助産師、養護教諭や企業に就職されている方、研究職や教育職に就かれる方も多くなりました。この他にも多分野でご活躍されている方の話も聞こえてくるほどです。

さて、今般の事情、新型コロナウイルス感染症の影響で、みなさんの働き方や学び方は大きく変わったことと思います。臨床の現場では感染防止対策と医療業務、看護ケアなどが複雑に混在し、これらに関連して、医療スタッフが足りない現場の状況に追われながら試行錯誤の毎日だと思います。また、大学教育の場面ではオンラインでの講義の取り組みとこれに相反する演習や実習時間の減少など、未だ何が正しくてどう改善すべきか明らかではない不安定さを残していると思います。

こうした不安定な時代だからこそ、同窓会の力が必要だと切に感じています。コロナ禍で少しの間ストップしていた同期会などの企画も徐々に再開し始めました。これに続き、今後は会員相互の親睦・交流を図り、社会に貢献するとともに大学の発展に寄与する、という同窓会の本来の目的を果たせるように、湖医会の活動を活発にしていこうと考えています。

現在の同窓会は昔と違い、現役の学生さんも同窓会のメンバーに加わっています。その実際は、学生が勉強や実習など学業に関すること、就職や国家試験など将来的な不安や悩みが生じたときに、それを打ち明け先輩の意見を聞いたりする機会を得ることができています。これを受けて、OG/OBの皆さんには、ぜひとも臨床や現場での経験や工夫、あるいは貴重なご意見を学生さんに教えてあげてほしいと思います。そして、卒業生の皆さんは、同期の横のつながりだけでなく、先輩後輩の縦のつながりも大事にしていただき、学年を越えた交流をしていただきたいと思っています。不安定な時代だからこそ、フレキシブルであたたかい意見や考え、心情的な想いを自由闊達に発信することができる同窓会であったらいいなと思っています。

最後になりますが、私は看護学科卒業生から初の副会長就任となりました。他の副会長は年齢一回り以上も上の医学科の大先輩ばかりですのでいささか緊張いたしますが、看護学科卒業生の代表として看護学科内外の出来事を発信していこうと思います。しかし、私や湖医会幹事の力だけでは同窓会は盛り上げることはできません。ぜひともこれからも同窓生の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

最後に永田会長の言葉をお借りして…。
「湖医会をにぎやかに、学生時代の気楽さを」。

看護学科棟前の紅葉

滋賀医科大学医学部附属病院の“今”

滋賀医科大学医学部附属病院 副看護部長
服部　聖子（看２期）

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。大学で看護の基礎を教わり、互いに励まし合いながら卒業まで過ごした日々を懐かしく思います。そのまま附属病院に就職した私は、京都の地から滋賀に移り住み、今では滋賀での暮らしのほうが長くなっていることに、驚きと住み心地のよさを感じています。

当初の附属病院は、散歩に最適な中庭があったり、木の扉の病室が６人部屋であったりと、懐かしき雰囲気がありました。そこから再開発を重ねて、県内や隣県から、緊急性を要する重症な状態にある患者さんや、希少な疾患に罹患した患者さんをより多く受け入れ、救命や最新の治療を提供すべく、新Ｄ棟が建ったり、低侵襲性を追求する治療機器が導入されたりと、変化しています。

近年では、新興感染症への対応強化のため、トリアージ棟が建設され、数年後には救急救命機能等の強化のため、機能強化棟（Ｅ棟）が建つ予定です。これからのコロナ共生時代や超高齢社会を見据えて日進月歩しています。

その中、変わらず継承されているのは、「信頼と満足を追求する全人的医療」という理念です。「全人的医療」の実現には、多様な視点から人を理解する力に長けている、看護の力が必要不可欠です。そのため、地域からの信頼や患者さんの満足を追求する病院づくりは、看護職に託されているとすら感じています。“その人らしさを支える”というシンプルなようで奥が深い看護について、今も学び続ける日々です。

附属病院では、地域での生活を見据えて急性期看護に携われる人材、看護の質に関わる専門・認定看護師や特定看護師、組織を牽引する看護管理者らを育成し、これからの世界にも類を見ない急速な超少子高齢社会に創造性をもって対応し、地域の人々の健康と望む暮らしに寄与できる病院づくりに邁進していきたいと思っております。

今後とも様々な形で皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げますとともに、またどこかでお会いできるのを楽しみにしております。

新Ｄ病棟外観

仕事・家事・育児の三立

滋賀医科大学医学部附属病院 5D病棟看護師
平岡　悠里（看９期）

私は、滋賀医科大学を卒業後に、約１年間オーストラリアのメルボルンにて語学・看護留学をし、その後滋賀医科大学医学部附属病院に就職しました。初めは4B病棟という、心臓血管外科と呼吸器外科病棟での勤務でしたが、すぐにD病棟が出来て、今の3D病棟で心臓血管外科と循環器内科を学び、その後、ICUや心臓リハビリテーション、育児休暇、復帰など経て、現在は5D病棟で脳神経外科・眼科病棟で働いています。

また私生活では、上は小学５年生から下は２歳まで、４人の子どもに恵まれ、毎日が嵐のように過ぎ去っていきます。

私が就職したころは、結婚して、家事・育児をしながら看護師として働くというのは、大変難しいように感じました。一回目に復帰した頃は、制度を利用した看護師が少なく、子どもの熱や病気で早退したり急な休みを頂くことが大変心苦しかったです。そんな時、先輩が「ママとしても働けるところを子どもにも後輩にも示して道を作りたい」と言われていたことがとても印象的でした。毎日が忙しく、やらなくてはいけないことに追われて、ついつい子どもに怒ってしまったり急かしてしまったりして、「仕事に追われて子どもに当たってこれでいいのか？」と自己嫌悪に陥ることもありますが、その度に先輩の言葉を思い出し、奮起しています。

そういった多くの先輩達の姿や、看護部の努力、世間の考え方、制度の利用、保育園の増加などにより、今はどの病棟にも時間短縮勤務や短時間勤務制度を活用して働いている看護師が多くなり、外来だけでなく、病棟や専門分野などでも、活躍している方を多く見かけます。

現在、時短制度を利用した同僚や素晴らしい先輩後輩にも恵まれ、忙しいながらも患者さんに寄り添った看護が出来るのが楽しく、家族看護、継続看護、患者教育、退院支援、多職種介入、リハビリテーションなどについて、また新しく学びながら、看護が出来ることを嬉しく思います。

これからますます、共働きが多くなっていく中、看護職を結婚まで、妊娠まで、と期間限定にするのはもったいないと感じます。時短制度を利用したり、何も看護職は病院だけではないので、様々な分野で、長く社会に貢献出来ると思います。

また、妻・夫・母親・父親という新たな役割を経験することで、より患者さんの気持ちに寄り添えたり、支援するのに役立つと思います。そのためにも、病院や事業所には（もうすでに実践されているかもしれませんが）、より働きやすい環境作りとして、勤務時間調整だけでなく、時短勤務者にももっと上を目指していけるような場を作っていただけたら幸いです。

皆さんも、もうすでに、誰かの道になっています。私も誰かの道になれるよう、これからも日々邁進してまいりたいと思います。

附属病院に３年間勤務して

滋賀医科大学医学部附属病院 2C病棟看護師
高山　景（看23期）

私は2020年３月に滋賀医科大学を卒業後、滋賀医科大学医学部附属病院に看護師として就職し、現在に至ります。

日々新たな経験を積み重ねながら、現在３年目の後半に差し掛かりました。

私が所属しているのは、救急科をはじめとした様々な診療科が混合している2C病棟です。

救急科は、その名の通り救急外来に訪れた患者さんの中から、病気、怪我、中毒などによる急病の方を診療科に関係なく診療し、特に重症な場合には救命救急処置、集中治療を行う診療科です。病気やけがの種類、治療の経過に応じて適切な診療科を連携して診療に当たりますが、入院直後は特定の診断名が確定せず、身近に関わる看護師や医師による日々の観察・診察が重要な鍵となることも多くあります。そのため、患者さんにおける小さな気付きや変化に注意しながら関わることがとても重要となります。バイタルサインや意識レベルはもちろんのこと、運動機能や血液データの変化など…患者さんの訴えに加え、症状を伝えることができない患者さんの全身状態まで、しっかり観察する力が求められています。

また、2C病棟の看護師は病棟だけでなく救急外来の勤務も担っており、２年目の途中から徐々に外来での勤務も始まります。病棟業務に加え、救急外来という特殊な外来業務にも携わることは、経験年数の浅い私にとってはかなり大変なことでした。しかし、特定行為などの専門的な知識と技術を習得している先輩看護師のもとでたくさんの学びを得ることができ、少しずつではありますが、成長できていると感じています。

就職してから３年間、新型コロナウイルスの流行のため、病院では診療科編成が行われることが多々あり、慣れない診療科の対応を任されることも数多くありました。整形外科、循環器内科、心臓血管外科、呼吸器外科、呼吸器内科、消化器内科など、救急科に加えひとつの病棟で複数の診療科を看る経験をしました。その時々は本当に大変でしたが、前向きに捉えると、通常では考えられないくらいの経験をさせてもらうことができました。

この先のキャリアを考える際にも、これらの経験が活きてくることを信じ、どのような疾患の患者さんに対しても、フレキシブルな対応ができる看護師を目指して頑張りたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。

急変が多い病棟のため、毎日の救急カートの点検は欠かせません

看護学科16期生
卒後10年同期会（ハイブリッド形式）開催のご報告

看護学科16期生
卒後10年同期会幹事一同

この度私たち看護学科16期生は2013年卒業から数えで10年の節目に当たる今年、湖医会からのご後援を受けて卒後10年同期会を2022年10月23日に開催いたしました。現地とzoomで参加してくれた同期会の写真とメッセージを交えて、今回の会誌でご報告をさせていただきます。

この度私たち看護学科16期生は湖医会からのご後援を受けて卒後10年同期会を2022年10月23日に開催いたしました。本来であれば同窓生と恩師の先生方もお招きして、お食事を一緒にしながらお話ししたり直接お顔を拝見したかったのですが、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑みて現地とzoomを使用したハイブリッド開催という形式をとりました。

数年開催されていなかった同期会を今回初めてのハイブリッド形式で行うということもあり、準備や段取りなど全てが手探り状態でした。新型コロナウイルス感染拡大第７波と準備時期が重なっていたこともあり、ハイブリッド形式であっても同期会そのものが開催できるかも危ぶまれる時期もあったことから、お世話になりました先生方においては今回ご招待することができず大変残念に思っております。しかしながら、今回、少人数ではありましたが無事に卒後10年の同期会を開催することができましたので、ご報告と感謝の気持ちを込めて、ここで参加者の方からのメッセージなどを紹介させていただきます。

＜参加者からのメッセージ＞

内川　路子

卒業10年での同期会。職場での悩みを話色々とアドバイスをもらえて情報共有の場になり勉強になりました。結婚等で働き方に悩むのは私だけではないんだなと心強かったです。また10年後には、違った悩みが出てくると思うのでその時またこのような会で話せたら嬉しいです。

塩谷　友理子

久々にみんなと会い、学生時代に戻れたようで楽しい時間を過ごすことが出来ました！

貴重な機会をいただきありがとうございました。幹事の皆様はじめお忙しい中、準備していただいた皆様ありがとうございました。

また会える日を楽しみにしております。

大塚（川嶋）　広子

時が経ち、コロナでなかなか会えないなど、ますます人と人との繋がりが希薄化しやすいなか、こういった同時期に同じ志を持って学んだ仲間との会える機会は貴重でありがたかったです。それぞれが今の悩みや課題に向けて、支え合えるきっかけにもなると思います。お忙しい中、同期会を開催してくださり、ありがとうございました。またの機会を期待します。

坂野　藍子

卒業以来会えてない友達とあえて、色々と話を聞きたいのに時間が足りないくらいでした。とても楽しいひとときが過ごせました。同期会委員の方、沢山の準備ありがとうございました。

谷本　健斗

短時間の参加でしたが、みんなの変わらない顔を見れてよかったです。

大西　菜穂子

卒後同期生のみんながどうしてるかなかなか連絡も取れてなかったけど、リモートでもみんなと話したり近況を話せて楽しかった。

中江　怜奈

久しぶりに同級生たちの近況を聞けて楽しかったです。開催が難しい現状のなか、企画してくださった皆様ありがとうございました！

門田　雅樹

普段会わへんから、久しぶりに顔見れたし、楽しかった。

浅井　麻友

zoomで参加しましたが、大学卒業時のアルバム等見ながら久しぶりの友人たちと話せて楽しかったです！

＜幹事からのメッセージ＞

佐藤　貴代

同期会に参加することで、卒業してから９年という月日が経ち、なかなか会えなかった友人達の近況を知ることができるよい機会となりました。ただコロナ禍ということもあり、なかなか通常の会を催す事が難しく、大人数で集まることもできなかったことは残念でした。さらに10年後、コロナなんてあったねなどと言いながら、みなさんと会える日を楽しみにしています。

この度はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございました。

飯田　真奈

今回、同期会の幹事をさせていただきありがとうございました。

対面式ではなく初めてのハイブリッド式ということで、進行のことやみなさん参加できるのかと不安に思うこともたくさんありましたが無事みなさんの協力の元終えられたことに感謝します。

ハイブリッド式だからこそ、遠くから参加してくださった方、仕事の休憩時間を使って参加してくださった方、子育てしながら参加してくださった方、もちろん現地に集まってくださった方。いろんな方が参加できてよかったなと思いました。

それぞれがそれぞれの道を歩んでいて、卒後９年でこんなにも変わるものかと思いましたが変わらないこともももちろんあり、話していてとても懐かしく思いました。

また何年後か、対面式で皆さんにお会いできる日を楽しみに、これからも仕事と育児頑張って両立していこうと思います。

最後になりましたが、湖医会の方々にもお忙しい中ご尽力いただきありがとうございました。

小幡　允里

今回、同期会の幹事をさせていただきました。

卒後10年という事で、皆、覚えてくれているだろうかと緊張しながら、同期会についての連絡をしました。

中々、仕事や家庭のことで行きたいけど、行けないという人も多かったですが、楽しんで下さいと温かい返信をくれました。

忙しい中、現地参加やzoom参加してくれた方と久しぶりに顔を合わせてお話をすることができとても嬉しかったです。

卒業してから、どこで働いてどんな事をしているなど、皆色んな経験を積んでいて、驚くことばかりでとても刺激になりました。

コロナ禍の中、どういう開催形式にするかや、広い会場の確保、飲食なしでの開催など、制限しないといけない事も多々ありましたが、幹事でいろいろ意見を出し合い、力を合わせて無事に開催できて、本当に良かったなぁと思います。

協力して頂いた湖医会の皆様、幹事の皆、そして、同期の皆、本当にありがとうございました。

川原　瑞希

今回、同期会幹事を務めさせていただきました。

同期会にご参加いただいた皆さん、この度はお忙しい中、現地そしてオンライン上でお集まりいただきありがとうございました。当日参加が難しかった同窓生の皆さんも開催に向けて応援や楽しい時間を！と温かなメッセージを送ってくれてありがとうございました。卒業後なかなか同期みんなで連絡を取ることもできていませんでしたが、約10年ぶりに顔を見ながら話したり、出欠確認のタイミングなどでも連絡をとることができてとても嬉しかったです。

卒業後に様々な現場、立場でたくさんの経験を積んでいること、約10年ぶりなのに学生時代と変わらず会話が途切れないくらい楽しい時間を過ごすことができました。

開催にあたっては様々な制約があり、会そのものの開催時期を始め、同期の皆さんに意見をもらったり、会場やハイブリッド形式実現に向けての段取りなど幹事のみんなと力を合わせて準備を進めました。今後、どのように生活スタイルが変化していくか分からない部分もありますが、新しい同期会の形を提案・実現することができたのではないかと思います。どうしても参加人数は限られましたが、開催することができて本当によかったと思っています。

在学中お世話になりました恩師の先生方、同期会そのものが開催実現となるか直前まで不透明で、今回ご招待ができなかったことがとても残念です。また次回は、ぜひ集まる機会をと考えておりますので、その際にはぜひ先生方にもお出会いできることを楽しみにしています。

最後になりましたがご支援いただきました湖医会、同窓生のみなさま、幹事のみんな、本当にありがとうございました。

今回の開催にあたり、当日参加が困難だった同窓生からもたくさんのメッセージをいただきました。ありがとうございました。

卒業後、なかなか連絡を取ることもできないままあっという間に10年が過ぎたような気がします。看護師、保健師、助産師としてだけでなく、幅広い職場や家庭など様々な現場で活躍しているみんなと今回少しでも連絡を取ることができてとても嬉しかったです。

開催にあたり、ご支援、ご後援をいただきました湖医会にはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

同窓生の皆さん、ご参加ありがとうございました。また、今回参加頂けなかった皆さん、またどこかでお出会いできるのを楽しみにしています。

今回の開催にあたり、現地集合者はzoomの配信などを安定して行えるように琵琶湖ホテルにて集合しました。琵琶湖の眺めも良く、次回はぜひみんなで会場に集って記念写真を撮りたいと思います。

看護学科
交流会

看護学科交流会
—e-learning を用いて—

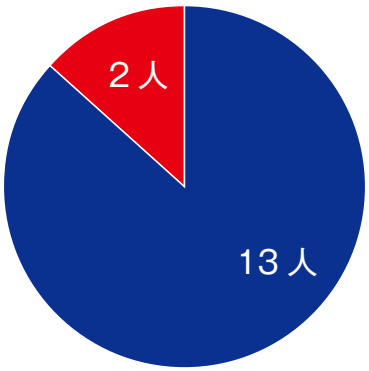
2022年　看護学科交流会

５月から６月にかけて、卒業生の先輩方に作成していただいた資料をe-learning上に掲載するといった形で、交流会を行いました。今年は６名の卒業生が協力してくださいました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で、卒業生の方々と直接お話しすることは出来ませんでしたが、病棟看護師・訪問看護師・産業保健師・助産師といった様々な職種の方から、就職活動や国家試験対策についてのアドバイス、就職後のお話などを聞くことができ、有意義な機会となりました。

交流会実施後のアンケートでは、以下のような意見が寄せられました。

交流会の時期は適切でしたか？



●はい

・自分の将来を考える時期だった。
・ちょうど就活のことを意識し始めた時期だったため。
・就活を始めるべきタイミングや準備の方法について知りたいと思っていたから。
・就活や国試勉強が本格化する四年生の春に情報を得ることができたため。

●いいえ

・就活を始める三回生の終わりとかでもいいかなって思いました。
・就活がもう始まっている時期だったので、もう少し早めに見れたらもっと参考にできたと思います。

就職活動がすでに始まっていたり、終わってしまっている人もいたので、３月頃に見れたら良かったという意見がありました。

交流会に参加した学生からの感想は、以下の通りです。
就職活動や国家試験勉強について参考になったという声が多く寄せられました。

〇看護師の方だけではなく、助産師や保健師、訪問看護師として就職された方の面接や試験対策、国試勉強に使用した教材などを知ることができて、とても良い機会になりました。

〇国試勉強を始めるタイミングやどの教材を買ったらいいのか分からなかったので、先輩方のアドバイスや具体的な勉強方法を聞くことができて、とても参考になった。

〇進路や就職先を考えるうえでとても参考になりました。

〇企業に就職された方の試験内容や参考書や問題集を知ることができて良かった。

〇就活について考える機会があまりなかったので、今回の交流会でいつ頃から就活を始めるべきなのか、どのような対策をするべきなのかを早めに知ることができて、就活について具体的なイメージを持つことができた。

交流会実施にあたってご協力いただき、ありがとうございました。

看護学科交流会班一同

キャンパス情報

もうすぐ開学50周年です！

公衆衛生学講座助教　湖医会常任幹事
津田　知子（看１期）

基礎看護学講座講師　湖医会副会長
山下　敬（看５期）

山下：いつもお騒がせしてます、副会長に就任しました山下です。

津田：副会長頑張ってね。

山下：はい、ガンバリマス！…ほかの副会長の皆さんは僕より20近く年上の大先輩ばかりですので、緊張しますが…。看護学科のあれこれを発信していきたいなと。

津田：看護学科卒業生からは初の副会長なので、期待してるで。

開学50周年特設サイトには、僕（山下）も登場しています。

山下：さて、最近の大学についてですが。
表題にもあるように、もうすぐ滋賀医科大学が開学して、50周年なんですよね。

津田：そうそう。
1974年に開学して、来年の2024年に開学50周年になるみたいやで。

山下：看護学科は1994年に開設されてるから、看護学科も30周年になるのか。どおりで年を取るもんですな。

津田：お互いに…。んで、学内でも50周年に向けて、色々と動きがありますよ。

山下：大学のホームページに、開学50周年特設サイトのリンクが貼られてるで。

津田：大々的にアピールしてますね。
スマホが手元にある方は、こちらのQRコードを読み取ってもらうと、特設サイトにアクセスできます。

山下：滋賀医大のこれまでの歴史を振り返ることができるようになってますね。
あ、僕載ってる。そういやセルポアのオムライスのこと書いたっけ。

津田：まだまだこれからもコンテンツは増えていくと思います。現在学生の皆さんにも参加してもらっての座談会なんかも企画されているみたいですし、「皆さまからの声」で学内外からコメントすることもできます。

山下：皆様ぜひコメントお願いします。

中庭・学生食堂がリニューアル！同窓会（湖医会）スペースの新設！

津田：50周年記念事業では、食堂や中庭のリニューアルも計画されています。

これを機に、福利棟（食堂のあった建物）が大きく改装されるみたいですよ。

山下：そうそう、福利棟の２階の「多目的ラウンジ」を改修して、湖医会スペースを新設するらしい。そして、湖医会事務局もその横に移転するとか。

津田：そうなれば、卒業生も立ち寄りやすくなるね。在学生とも交流しやすくなるしね。

山下：こんな感じになるんやって⇒⇒⇒⇒
中庭の雰囲気をイメージして、内装にレンガを使うみたいやで。
できれば、中庭のレンガを再利用するんやって。

山下：学生食堂はこんな感じ⇒⇒⇒⇒⇒
ご飯も美味しく食べられそう。

津田：内装カラーは学生や教職員、卒業生に投票してもらって、決定しました。

山下：中庭もレンガが割れたりして、老朽化してたからなあ。
最近は池にも全然水入ってなかったし。代わりに芝生がひかれたり、休んだりできるところやテラスができるのはイイですね！

津田：中庭も学生さんをはじめ関係者にアンケートを取ったりして、多くの人の希望に添えるような形で考えられているみたいです。

山下：これは完成するのが楽しみですな。

学生食堂 完成イメージ

中庭 完成イメージ

毎週火曜日にキッチンカーが来ています。ランチが楽しくなりますね。

山下：そういえば、中庭にこないだキッチンカー来てたで。

津田：そうなんです。
以前から学生さんからの希望が多かったキッチンカーの出店が、今年度後期より始まりました。

山下：行列できてるやん。

津田：今のところは毎週火曜日、週替わりで色々なお店が出ていますよ。（日程は変更の可能性あり）

山下：隣の立命館大学とか龍谷大学には当たり前のようにキッチンカー来てて、うらやましかったのが、とうとう滋賀医大にも。めでたい。

津田：皆様、お近くにお越しの際はぜひご利用ください。

ホームカミングデーも企画中です。日程が決まりましたらお知らせします。

津田：そのほか、記念事業ではホームカミングデーも企画されています。

山下：ほーむかみんぐでい？　卒業生よ帰っておいで、的な？

津田：そうそう。
ホームカミングデーは、同窓生に今の大学の現状を伝え大学を懐かしんでもらいながら大学を盛り上げたり、活躍している同窓生の今を伝え看護職としてのキャリア形成にもつながることをねらいとしているようですよ。

山下：ふむふむ。
先輩後輩が一堂に集まれたら、面白いっすね。

津田：滋賀医大は単科大学ですし、規模もそこまで大きくないですからね。でもその分、先輩後輩のつながりは濃かったりしますから。そこを活かしていけるといいかなと。

山下：卒業生の皆さん、日程が決まったらぜひ予定を開けておいてください。
滋賀医大に集合です！

開学50周年「三方よし」未来募金にご協力お願い致します！

是非、記念事業の趣旨にご賛同いただき、滋賀医科大学開学50周年「三方よし」未来募金にご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。

詳細はこちらから。
クレジットカード等でも寄附できます。

事務局職員の異動

○事務局長就任あいさつ

上野　市太郎

この度、昨春ご退任された奥野　正前事務局長の後任として令和４年４月から勤めさせていただいております上野と申します。

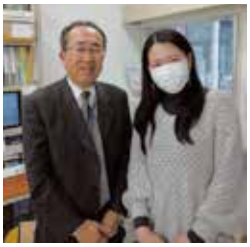
私は平成31年３月に学生課を最後に定年退職し、その後３年間附属病院のクオリティマネジメント課（医師臨床教育センター）にて再雇用職員として勤務しておりましたが、ご縁をいただきまして湖医会事務局でお世話になっております。

まだまだ不慣れで先生方にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、何卒よろしくお願いいたします。

これまで奥野事務局長には、事務局の就労環境の整備や法制化、関係規程の整備などを進められ、湖医会事務局の運営にご尽力いただきました。とても私にはそのような力はございませんが、奥野さんが整備された体制を維持し、湖医会創立42年という重みを身に感じながら精いっぱい務めてまいりたいと思いますので、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

○ごあいさつ

奥野　泉



この度、昨年３月に退職された遠藤喜代子さんの後任として４月より勤務しております奥野です。同窓会事務は初めてとなりますので色々とご迷惑をおかけするかと思いますが、これまで培ってきた事務職としての経験を活かして「湖医会」に貢献できるように頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

前　奥野事務局長、遠藤事務職員に感謝状贈呈

昨年３月31日付けで、前事務局長の奥野　正さん、同事務職員の遠藤喜代子さんが退任されました。

湖医会では、お二人のこれまでのご苦労に感謝の意味を込めて、昨年10月30日（日）に開催された2022年度湖医会総会において、永田会長から感謝状と花束、記念品が贈呈されました。

お二人からのお礼の言葉は以下のとおりです。

前事務局長　奥野　正

感謝状をいただき大変ありがとうございました。

感謝状をいただくような仕事ができたのか少し恐縮しております。

この３月まで湖医会事務局長として11年間お世話になりました。

渡辺前会長、永田会長を初め、多くの先生方のご指導をいただき、何とかやってこられたのかなと思っています。

その間いろいろな事があったのですが、中でも最初の年、2011年ですが、湖医会創立30周年記念事業をやるということで、第１回ホームカミングデーを開催したり、広報誌のカラー版化を行ったり、そういうことに取り組んできました。

これからも事務局の活動にご理解いただき、さらに皆さんが事務局をご利用いただけるようになればうれしい限りです。

湖医会が今後益々発展していくよう祈念いたしましてお礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

前事務職員　遠藤　喜代子

本日はありがとうございました。

私も14年間お役に立つような仕事ができたかと言われますと、心残りのようなことがたくさんあるのですが、この14年間の中でたくさんの先生方や皆さんとお会いでき、先生方からたくさんのことを教わり本当にありがたく思っております。

今後益々の湖医会のご発展をお祈りいたしまして、ごあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

■事務局から

2022年度「湖医会」総会　議事録

日　時　2022年10月30日（日）15：40～16：45
場　所　滋賀医科大学臨床講義棟臨床講義室１

議　　題

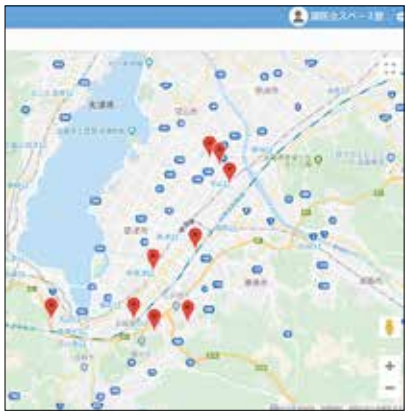
1．**2021年度事業報告・決算について**
　原案（資料1-1、資料1-2、資料1-2（1）、資料1-2（2））のとおり承認された。
2．**2022年度事業計画・予算について**　原案（資料2-1、資料2-2）のとおり承認された。
3．**役員（副会長）の選出について**
　看護学科　山下　敬　氏を新たに副会長とすることが承認された。

※各資料は｛湖医会｝ＨＰを参照

湖医会ポータルサイトのご案内

地図機能により表示に同意いただいている
湖医会会員の勤務先を検索できます!!

登録がまだの方は是非登録をお願いします!!



配布のID、パスワードがご不明な方は、ご連絡ください。

●問い合わせ
e-mail : koikai@koikai.org

会員の現況（1/1現在）総数 6,961名

- ●卒業会員
  - （学　部）5,838名（医学科名 4,158名、看護学科名 1,680名）
  - （大学院）20名
- ●学生会員　939名（学部：920名、博士：13名、修士：6名）
- ●学友会員　101名
- ●特別会員　63名

会費納入のお願い

看護学科は終身会費制　**終身会費　20,000円!**

これまでに20,000円以上を納入されている方は、終身会員となっています。
20,000円に満たない方はその差額を納入された時点で終身会員となります。
終身会員でないと、広報誌や卒後10年・20年の同期会の案内などがお届けできないことになります。
詳しくは、湖医会事務局までお問い合わせください。

名前･住所･勤務先･メールアドレス等が変更になった場合は、
メールまたはファックスで事務局までご連絡ください。